

東海環状自動車道 発掘調査だより

いなべ編 No.6

三重県埋蔵文化財センター

2019. 7. 6

四辻遺跡 出土遺物



①押型文土器（竪穴建物1出土）



②押型文土器（竪穴建物2・3出土）



③押型文土器（土坑1出土）



④押型文のつけ方（推定）

いずれも押型文（おしがたもん）土器と呼ばれる土器で、県内の縄文時代早期（約8,000～10,000年前）の遺跡でよく出土する土器です。写真④のように刻み目を入れた木の棒を転がして土器の表面に文様をつけたと考えられています。土器はいずれも3～5cm程度の小片ですが、文様は、楕円形や格子目状のものなど様々です。写真②の右上の土器にはスガが付着しており、煮炊きなどに使われた可能性がうかがえます。

まとめ

平成27年度から始まった四辻遺跡の発掘調査は今回で終了です。一連の調査では今回みつかったいなべ市内で初めてとなる縄文時代早期の竪穴建物をはじめ、室町時代の地域の有力者の墓（塚墓）、江戸時代後期の耕地開発の際に掘られた地割り溝などがみつかると大きな成果がありました。「京ヶ野」と呼ばれ、地域の方に親しまれてきた丘の上には1万年にわたる人びとの歴史が刻まれていたことが分かりました。

遺跡名

原因事業 東海環状自動車道建設事業
調査委託 国土交通省中部地方整備局
調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
TEL:0596-52-1732/FAX:0596-52-7035 http://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/index.shtm
いなべ整理所 〒511-0415 三重県いなべ市北勢町東貝野454番地
TEL:0594-72-8955/FAX:0594-72-8970

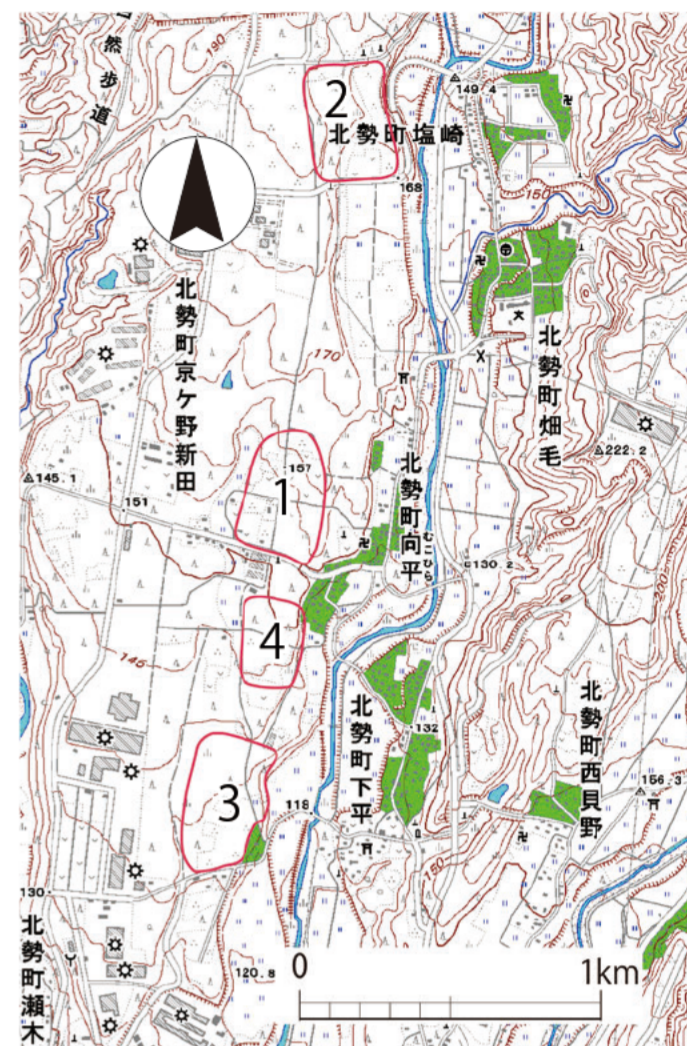
はじめに

三重県埋蔵文化財センターでは、平成27年度から東海環状自動車道建設事業に伴う発掘調査を行っています。

今回発掘調査を行った四辻遺跡（よつじいせき）は、いなべ市北勢町向平にあります。石器や陶器片が採集されたことから、平成19年度に遺跡として新規登録されました。

四辻遺跡の周辺では、ほかに、空畑遺跡、下平大野A遺跡、下平大野B遺跡など多くの遺跡が確認されています。

四辻遺跡では、平成27年度から発掘調査を行っており、今年度は第4次調査となります。これまでの調査では、室町時代の地域の有力者の墓や江戸時代の溝などがみつかっています。また、数点ですが縄文時代早期の押型文（おしがたもん）土器なども出土しています。



四辻遺跡周辺の遺跡

- 1 四辻遺跡
- 2 空畑遺跡
- 3 下平大野A遺跡
- 4 下平大野B遺跡



H29年度の調査でみつかった室町時代の墓（塚墓）

見つかった遺構

縄文時代早期（約8,000～10,000年前）の竪穴建物が調査区の南側で1棟、東側で2棟みつかりました（竪穴建物1・2・3）。竪穴建物はいずれも円形をしており、竪穴建物1は直径約4.5m、竪穴建物2と3は重なっており、確認できた部分で、竪穴建物2が直径約3.5m、竪穴建物3が直径約2.5mあります。いずれの竪穴建物からも縄文時代早期の土器や石器が出土しました。いなべ市内でこの時期の竪穴建物がみつかるのは、これが初めてです。

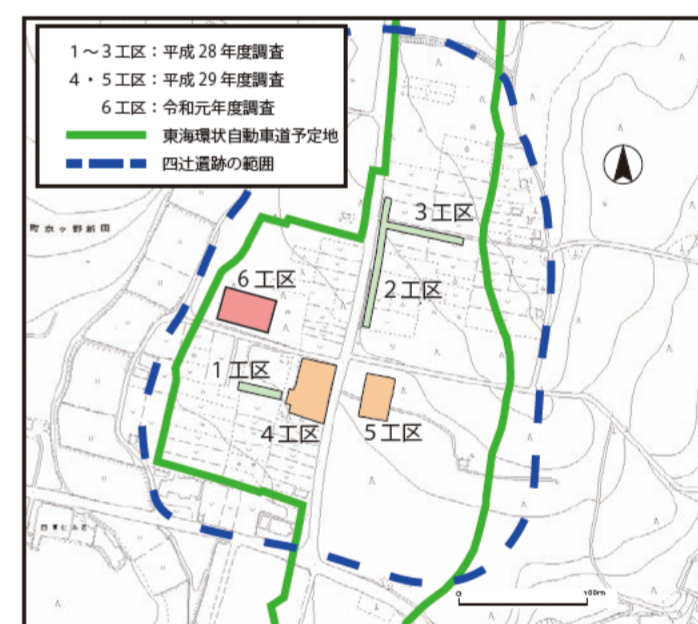
竪穴建物2の約6m西の位置から長さ約3m、幅約2mの楕円形の穴がみつかりました（土坑1）。この穴からは竪穴建物と同じ縄文時代早期の土器が出土し、さらに、穴の底からは15～20cm程度の礫が10個みつかりました。礫の位置はおおむねまとまっていますが、意味をもって並んでいるようにはみえないため、ゴミなどとともに不要な礫が投棄されたものと思われる。

そのほか、江戸時代後期（約200年前）の耕地開発に伴う地割り溝が2条（溝1・2）と時期不明の小穴（土坑2）がみつかりました。江戸時代の地割り溝はこれまでの調査でもみつかり、今回みつかった溝も規模や方向がほぼ同じものです。土坑2からは土器の底部片が出土しましたが、風化が進んでおり、時期は特定できませんでした。



竪穴建物1 完掘状況（北東から）

直径約4.5m、深さ約20cm。中央に向かって浅い皿状に凹んでいます。中央付近に長さ約70cm、深さ約20cmの楕円形の穴がみつかりました。この穴からも竪穴建物と同じ時期の土器片が出土しました。



四辻遺跡 調査区配置図

今回の第4次調査（6工区）で四辻遺跡の調査は終了となります。



竪穴建物2（左）・3（右） 完掘状況（南から）

2棟が重なっています。深さはどちらも10cm程度しかありません。後世の耕作などで遺構の上部はかなり削られているようです。



土坑1 礫出土状況①（西から）

土坑の上部は溝2によって一部が削られていますが、土坑底面に礫が残っていました。



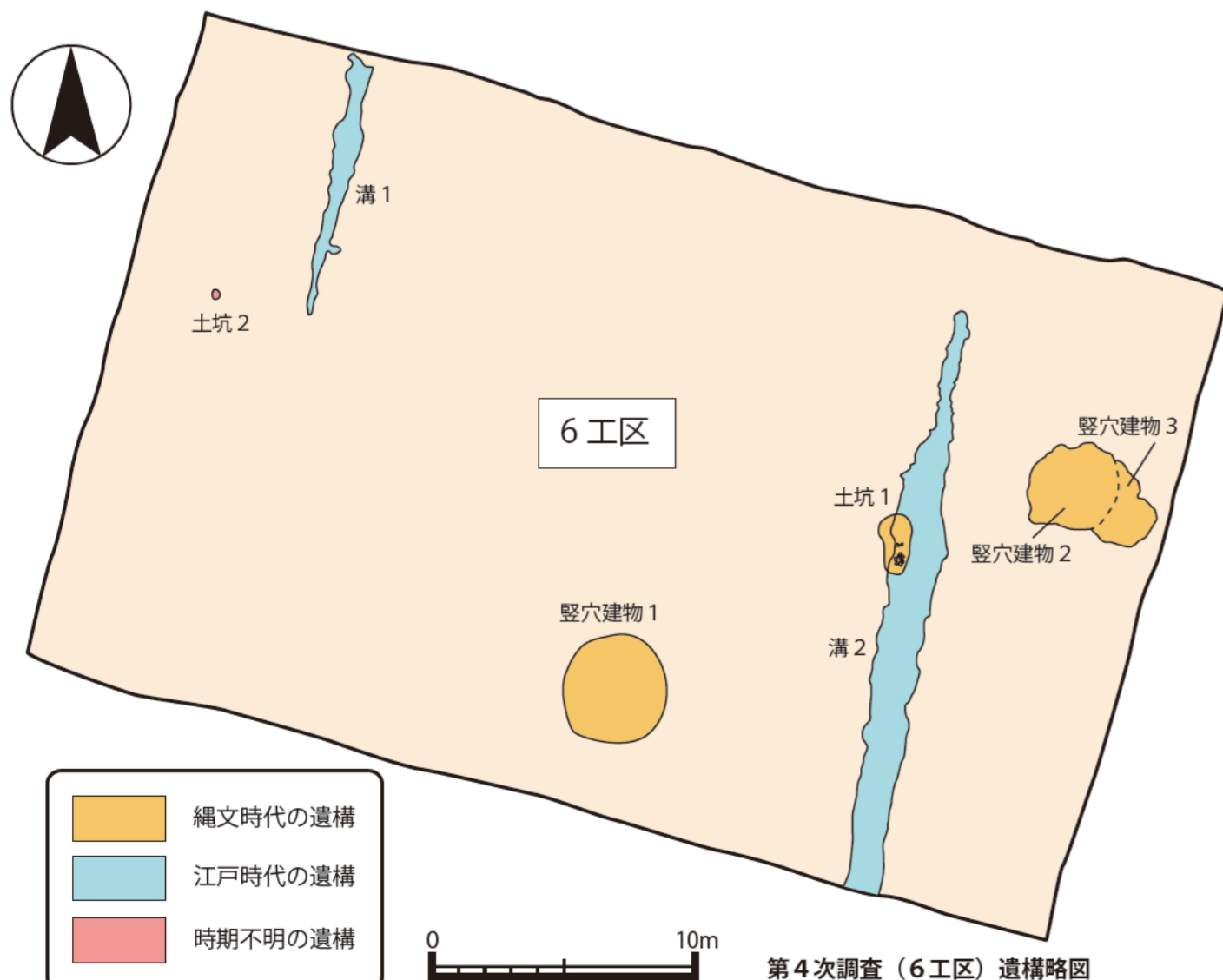
土坑2 遺物出土状況（西から）

直径約30cm、深さ25cm。点線内が土器です。



溝1 完掘状況（北から）

幅は広いところで約1.2m、深さは12cmほどの浅い溝です。遺物は出土していませんが、これまでの調査で同様の溝から江戸時代後期の陶器片などが出土しています。



第4次調査（6工区）遺構略図

